

14 馬のいる駅

現代にはおもしろい駅がたくさんあります。犬駅長のいる駅、猫駅長のいる駅、中には伊勢エビ駅長のいる駅もあるようです。実は古代(飛鳥時代～平安時代)の日本には、400カ所以上の駅に馬がいました。昔の駅は、電車を乗り継ぐ場所ではなく、馬を乗り継ぐ場所だったのです。

古代には「駅制」という交通制度があり、全国に東海道・東山道・北陸道・山陰道・山陽道・南海道・西海道の「七道(しちどう)」が造られ、駅路として高速道路のような役割を果たしていました。

兵庫県には山陽道(播磨)、山陰道(丹波・但馬)、南海道(淡路)の3つの駅路が走っていました。駅路は直線的に造られており、原則30里(約16km)ごとに駅家(うまや)が設置されました。古代山陽道の各駅には馬が約20頭いたことがわかっています。都や諸国から鈴を鳴らした使者が早馬でやってきて駅で馬を乗り換え、目的地に向かって進んで行きました。

山陽道の駅家は、使者の食事・宿泊や宴会、外国からの客人をもてなすための施設としても利用されました。8世紀には、国の威信を示すため、瓦葺の屋根、白い壁と赤い柱を持つ立派な建物が建設されました。なお、古代の駅にも駅長がいましたが、残念ながら全員人間だったようです。

兵庫県では、これまでに古代山陽道沿いの5カ所の駅家が発掘調査されていましたが、今年に入って上郡町で6カ所目の「高田駅家(たかだのうまや)」(辻ヶ内遺跡)が発掘されました。調査の結果、駅家を取り囲む塀や、播磨国の駅家に特徴的な瓦が発見されました。



古代の駅路(博物館のパネル)



上郡町辻ヶ内遺跡の発掘・瓦がたくさん出土している



「驛」墨書土器

当館のテーマ展示室では、たつの市の布勢駅家(ふせのうまや)から出土した瓦や木簡、土器を展示しています。土器には「驛(駅)」と書かれています。

上郡町の野磨駅家(やまのうまや)は清少納言『枕草子』や『今昔物語集』にも登場します。



古代の駅の展示コーナー

博物館が再開したら、古代の駅から発見された展示物をぜひ見に来てください。

(学習支援課 新田宏子)



野磨駅家(落地遺跡)の解説